

読書

県立岐阜図書館時代の
一九三五(昭和十四)年、
各務支考(一六六五—
七三二年)を始祖とする
美濃派俳諧「獅子門」の
道統家(代々の主宰者)
から獅子門関係の俳書五
冊、奇贈された資料の書
目が掲載されており、い
たずらに死蔵することな
く、篤学の者に閲覧の機
会を広く与えるため「寄
贈したと書かれている。
芭蕉の高弟の一人だっ

県図書館に行こう

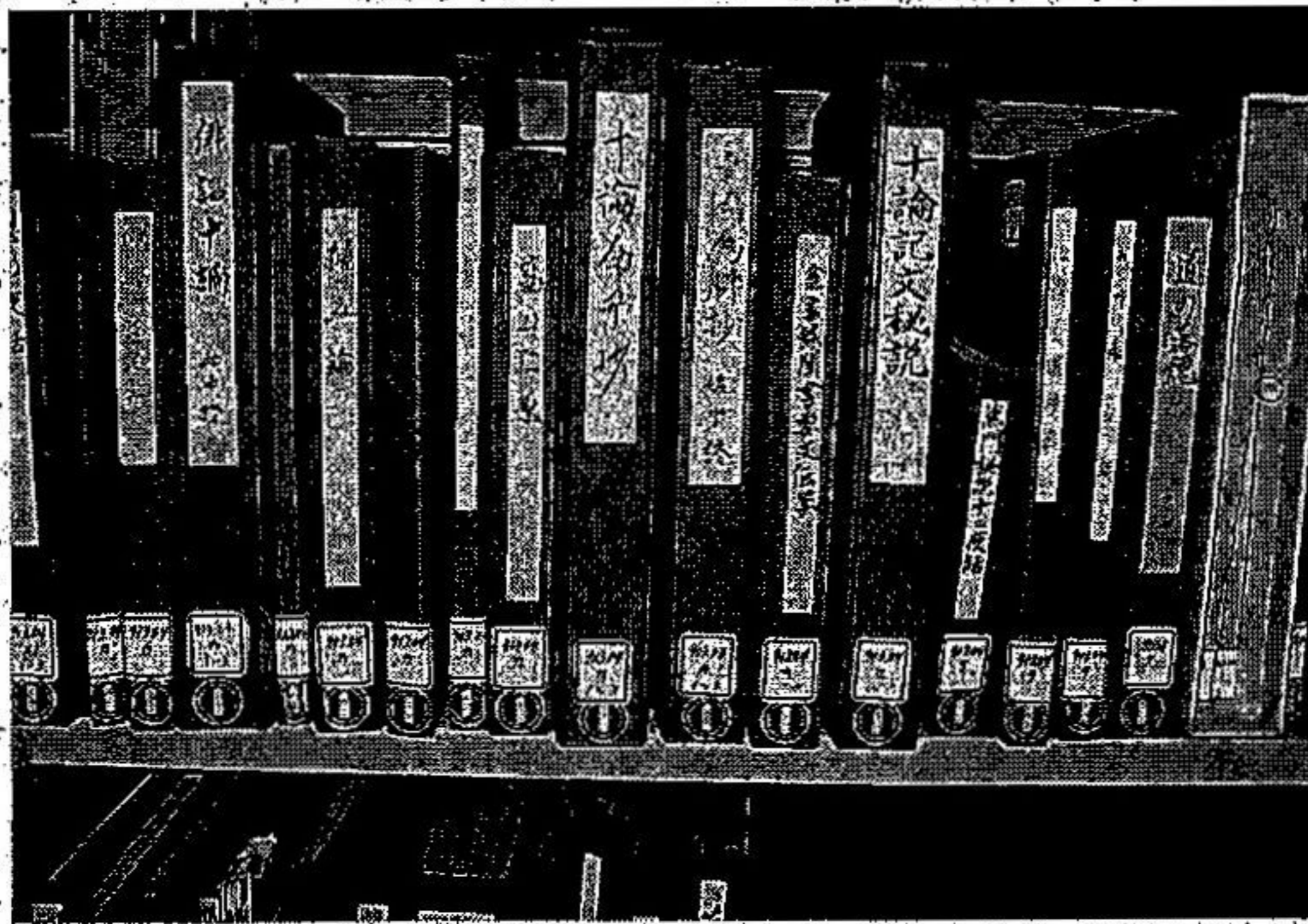
こんな情報^①が待っている

十九種、百二十九冊の寄
贈があり、それらを「支
考文庫」と名付けた。今
も続く美濃派が近年刊行
した合同句集「黄山」に、
その時、県立岐阜図書館
が贈った感謝状の文面

た支考は、芭蕉の作風を
まとめた「葛の松原」や
「俳諧十論」など多くの
俳論書を著し、芭蕉の俳
諧を全国に広めた。支考
の出身地美濃では「美濃
風」と呼ばれる独特の俳

貴重な資料群

「支考文庫」(美濃派俳書コレクション)



譜文化が育ち、平易で庶
民的な中に風刺の効いた
作風が愛された。
この時寄贈を受けたも

のを軸として、その後も
多くの美濃派俳書の収集
を続け、現在の美濃派俳
書コレクションが築かれ
た。ほかにはない貴重な
資料群として、研究者の
利用に供している。容易
に利用できるように大部
分はコピーによる複製本
が作製されて開架閲覧室
に置かれており、直接手
にとることができる。

「支考文庫」の俳書に
は、道統家にあつたころ
の証しとして『道統文庫』
と刻された朱印のあるも
のが多く、歴史の重みが
伝わってくる。

「獅子門」関係の俳書の中
心に美濃派俳書の貴重資料
がそろった「支考文庫」